

取材・文 / 玉利明子 撮影 / 青木 崇

暑気払いにもぴったりの、かわいいお香。

パズルのピースのようなプレートに、ポータワーや風見鶏など神戸らしい風景が描かれていて、ふんわりと華やかな香りも漂ってくる。これらは老舗の線香メーカーがつくる、新しいタイプのお香。「火をつけずに飾っておくだけでも香りが楽しめます」と、常務取締役の明石さん。このプリント印香シリーズは見た目のかわいさや手軽さもあって昨年の発売以来、人気商品に。それぞれテーマに合わせた香りが調合されているのもおもしろい。

時代末期から漁・農閑期の副業として線香製造が盛んに。降雨量が少なく海からの西風が乾燥に適していたこと、原料の楠(たぶ)の搬入や製品の輸送に便利な立地条件に恵まれていたことなどから大きく発展し、現在では国内生産量の約7割のシェアを誇る。この地で明治26年(1893)に創業した「薫寿堂」は、伝統的な香りを守りながら、暮らしの中で気軽に楽しめるお香も多く手掛けている。蒸し暑い夏の日にはちょっと気分を変えたくなったら、今年はこのお香をたいてみよう。

プリント印香1080円。7種の絵柄が描かれた「神戸」は、ほんのり甘く華やかな香り。ほかにも、東京タワーや雷門などの「東京」、歌舞伎の隈取や富士山などの「日本」などがある。「淡路島」シリーズも登場予定。



原料の「楠」の木の樹皮の粉に香料などを加えて練り上げる。この時点では強い香りなのが、一昼夜の乾燥などを経るうちにやさしいいい香りに。



「毎日香りに触れていると、感覚で、使われている香り素材も分かるようになってきます」と常務取締役の明石省三さん。工場見学やお香づくりの体験教室も人気(要予約)。



定番の線香などを含めて140種以上の商品をつくる。成形、乾燥を終えた線香を人の手と目で検品しながら整えていく。

社内には香りの専門家がいて、「薫寿堂」らしい伝統的な香りを守りつつ、それぞれの商品に合わせて工夫を凝らしている。



完成したプリント印香をいねいに袋詰め。どの商品も包装まで手作業で行われている。



■薫寿堂

淡路市多賀1225-1
☎0120-756-583
午前10時～午後4時 無休
www.kunjudo.co.jp
※上記店舗のほか、神戸国際会館B2の「じばさんele」で販売